

◆ 平成 28 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）報告一覧

実施主体	コーディネータ	日時	実施場所	簡単な状況報告
人間文化学部 国際文化学科	船津 晶代, 柳川 順子	平成 29 年 2 月 21 日 (火) 10:40~12:10	1212 会議室	<p>テーマ 教育プログラムの実質化に向けての情報交換会</p> <p>参加者 20名（うち3名は紙上参加）</p> <p>簡単な状況報告 国際文化学科では、平成 28 年度、体系性と一貫性のある専門教育を実現するため、「英米文化」「日本文化」「東アジア文化」の 3 つの主専攻プログラム及び「人間理解・国際理解」「比較文化」「比較言語」の 3 つの副専攻プログラムを設けた。平成 29 年度入学生から適用されるこの教育プログラムの実質化に向けて、学科の専門教育を担う全教員が、自身の持つセット科目（卒業論文につながる「論」「基礎演習」「演習」の 3 科目）について、プログラムの中で果たす役割を説明し、これにより、様々な学問領域から成る学科教員相互の理解を深めようとしたのが今回の FD である。</p> <p>事前に、全教員に対して、教育プログラムにおける担当セット科目の位置付けを 100 字程度で示すよう依頼し、FD 当日は、その回答をまとめた資料にもとづいて、参加者全員が一人ずつ説明を行った。その中で、他の科目との具体的な関連性に言及したり、教育方針や授業方法の工夫に言及したりする発表も多く、学科の専門教育に対する参加者の真摯な取組姿勢が窺われた。成果は、まず次年度の「国際文化学概説」「国際文化学入門」に反映させる。時間と教員の人数との兼ね合いで、今回は質疑応答の時間を設けることができなかったが、科目間連携の可能性をさらに模索していくための一助として、同趣旨の FD を今後も継続的に開催できるとよい。その際、たとえば回ごとにテーマや分野を決めるなどして時間にゆとりを持たせ、教員が自由に意見交換する機会を設けることができれば理想的である。</p>
人間文化学部 国際文化学科	秋山 伸隆	平成 28 年 9 月 20 日 (火) 10:40~12:10	1215 会議室	<p>テーマ 初年次教育の改善 — 「大学基礎セミナー」「国際文化学概説」を中心に —</p> <p>参加者 17 名</p> <p>簡単な状況報告 この FD では、大学教育への導入＝「大学基礎セミナー」と専門教育への導入＝「国際文化学概説」という二つの視点から、国際文化学科の初年次教育の改善に取り組んだ。</p> <p>まず「大学基礎セミナー」については、学生による授業評価アンケートの結果と担当教員からあらかじめ提出させたコメントから浮き上がってくる成果と課題について討議した。論点としては、クラス編成の方法（学籍番号順か学生の希望か）、研究テーマの設定の方法（教員による指定か学生の自由選択か）、学修の進め方（個人研究かグループ研究か）などである。とくに議論になったのは、自由記述欄にあった「調べたいテーマを自由に選べない」、「教員（クラス）を選べるようにしてほしい」という学生の意見への対応である。教員からは、学生の希望を活かすように改善すべきであるという意見と、テーマは何であれ、個人・グループの学修活動を通じて大学生としての学修のスキルや態度を身につけるという「大学基礎セミナー」の目的を学生に理解させる必要があるという意見があった。この点を含めて、来年度の担当予定者で継続して検討する予定である。</p> <p>次に「国際文化学概説」についても、授業評価アンケートの結果などをもとに総括と課題の検証を行った。本年度は、「異文化との接触」というテーマを掲げ、事前学修課題の明示、プリントの前週配布などを徹底し、学生には 4 年間の学修目標の自己設定と履修モデルの選択につながるようなレポートを課すことにした。この試みは、オムニバス形式の授業の弱点を補強し、一定の成果につながったと思われるので、次年度以降も継続していくこととしたい。</p>
保健福祉学部 健康科学科	江島 洋介, 谷本 昌太	学科教員会議（科会） の定例開催に合わせて 11 回実施（平成 27 年 4 月 5 日～平成 28 年 3 月 16 日までの間）	1212 会議室, 1215 会議室	<p>テーマ 健康科学科における学生支援活動の継続・発展 2</p> <p>参加者 学科教員 14 名～17 名</p> <p>簡単な状況報告 学生の履修状況等に関する情報の把握・共有・記録を学科内で行なうことで、学生が抱える課題の早期発見、並びにそれら課題への早期支援を試みた。支援方法の共有と支援状況の学科へのフィードバックを行うとともに、適宜、学生相談室の助言を求めてより迅速でかつ効果的な学生支援に努めた。</p>

<p>経営情報学部 経営情報学科</p>	<p>小川 仁士, 佐々木宣介, 重丸 伸二, 広谷 大助, 陳 春祥</p>	<p>①平成 28 年 11 月 17 日 (木) 10:40~12:10 ②平成 28 年 12 月 1 日 (木) 10:40~12:10 ③平成 29 年 3 月 1 日 (水) 10:40~12:10</p>	<p>1548 研究室 (学科長研究室)</p>	<p>テーマ 初年次導入科目の見直しと改善 参加者 ①4名 ②4名 ③5名 簡単な状況報告 全学共通教育科目のカリキュラム改革におけるL字型学修モデルの年次進行に伴い、学年を縦に貫いた煙突型科目配置の時間割編成が本年度より実施されている。これにより、1年生の時間割に専門科目の基礎を置く余裕が生まれてきた。また、ここ近年の学生の意識調査の結果を総合すると、1年生入学時の学修モチベーションが他学科に比べ、相対的に低いことなどが問題となっていた。そこで、本学科の持つ3つの学問体系(経営科学系、経営情報系、情報処理系)で学修する科目群と、3,4年次で取り組む経営情報学専門演習(卒業研究)との間の繋がりを予め把握することにより、学修の方向性を明確にし、学修のモチベーションを高めることを目的とした新しい専門科目の新設について教務委員会を中心に議論した。 活動は問題点の共有から始まり、新設科目の目的および目標設定、具体的な授業内容と運営方法の立案、学科教員の理解浸透と順を追って実施した。その結果、学科専門演習関連科目「経営情報学研究序論」(1年前期、1単位、必修)を開設するに至った。</p>																								
<p>生命環境学部 生命科学科</p>	<p>五味 正志</p>	<p>4月から6月にかけての学科会議及びコース会議において実施方法を検討した。 大学基礎セミナーの第8回(5月30日)から第15回(7月25日)に実施した。</p>	<p>大講義室及び各教員の研究室</p>	<p>テーマ 大学基礎セミナーの実施方法改善についての検討 参加者数 教員34名、学生114名 簡単な状況報告 生命科学科では、卒業研究を実施する研究室配属において、学生の理解不足からミスマッチが生じているとの認識があり、従来から大学基礎セミナーで教員の研究内容の紹介と研究室訪問を実施していた。昨年度から、ALの手法を取り入れるため、研究室訪問の時に議論を取り入れる方法に変更した。昨年度の実施後のアンケート調査から、訪問する研究室の選定方法と議論の課題内容について、学生の満足度が少し低い傾向が読み取れたため、今年度はこれらの方法について少し改善を試みた。訪問研究室の選定方法については、メールによる申し込み方法から希望順に割り振る方法に変更した。また、議論の課題については、コースごとに少し手法を変更した。その結果、今年度の実施後のアンケート調査から、これらの点について若干の改善が認められた。また、昨年度は最初ということもあり、教員の理解度が少し不足していたが、その点についてもかなり改善が認められた。今後も、さらなる改善を実施していく予定である。</p>																								
<p>保健福祉学部 看護学科</p>	<p>黒田 寿美恵</p>	<p>右記のとおり</p>	<p>三原キャンパス(2210会議室, 4102会議室, 4511セミナー室など)</p>	<p>テーマ I. リフレクティブ・ラーニング (reflective learning) の促進 ～自ら成長し続ける「省察的実践家」としての基礎的能力を育成する教育技法を学ぶ～ II. 看護学教育の基礎について改めて学ぶ 参加者数および簡単な状況報告 テーマ I. 12月22日(木) I限目・・・22名。 複数の教員が外部で開催された次のセミナーを受講し、「省察的実践家」育成に関する基本的な知識および技術を身につけ、学科教員への伝達講習を行った。 ●臨床判断力につながる「経験から学びを引き出す教育技法」(8月28日(照林社セミナー)) ●臨地実習再考 看護実践能力を高める実践的思考力の育成—看護過程, クリティカル・シンキング, 臨床判断モデルを活用する—(11月27日(医学書院セミナー)) テーマ II.</p> <table border="1" data-bbox="987 1289 1783 1495"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日時</th> <th>プレゼン担当</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6/7(火) I限目</td> <td>黒田</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>7/6(水) IV限目</td> <td>黒田</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>8/4(木) I限目</td> <td>川野</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>9/1(木) I限目</td> <td>片山・榎木</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10/19(水) I限目</td> <td>中垣・船橋</td> <td>12名</td> </tr> </tbody> </table>	回	日時	プレゼン担当	参加人数	1	6/7(火) I限目	黒田	13名	2	7/6(水) IV限目	黒田	12名	3	8/4(木) I限目	川野	17名	4	9/1(木) I限目	片山・榎木	16名	5	10/19(水) I限目	中垣・船橋	12名
回	日時	プレゼン担当	参加人数																									
1	6/7(火) I限目	黒田	13名																									
2	7/6(水) IV限目	黒田	12名																									
3	8/4(木) I限目	川野	17名																									
4	9/1(木) I限目	片山・榎木	16名																									
5	10/19(水) I限目	中垣・船橋	12名																									

6	11/17 (木) II 限目	渡辺	10 名
7	12/26 (月) II 限目	上野	15 名
8	1/30(月) II 限目	山中	16 名
9	2/6(月) IV 限目	岡田 (麻)	18 名
10	3/8 (水) IV 限目	辻川	19 名
11	3/23 (木) IV 限目	永井	20 名

図書「看護教育学 第6版/杉森みどり, 舟島なをみ/医学書院」を用いて, 月1~2回程度の抄読会を行った。1回あたりの進捗は20~30頁程度とし, プレゼン担当者が該当範囲に関するプレゼンテーションを行い, 内容に対する理解を深めたいうで全員でディスカッションを行った。また, 看護学教育の基盤となる「学校教育法」「大学設置基準」「保健師助産師看護師法」「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」などについての再確認, 看護学教育モデル・コア・カリキュラムに関する情報共有により, 今後の看護学教育を検討するうで必要な知識を共通認識できるようにした。

テーマ 臨地実習教育の充実

参加者数

- 1 実習指導者担当者協議会 30名
- 2 実習検討会

開催回	日時	人数	開催回	日時	人数
①	平成28年 4月 4日(月)10:00~	9	⑦	平成28年11月14日(月) 10:40~	10
②	平成28年 5月12日(木)10:40~	9	⑧	平成28年12月21日(水) 16:20~	10
③	平成28年 6月16日(木)13:00~	9	⑨	平成29年 1月13日(金) 15:00~	10
④	平成28年 8月 4日(木)10:40~	10	⑩	平成29年 2月13日(月) 16:20~	10
⑤	平成28年 9月16日(金)10:40~	10	⑪	平成29年 3月 8日(水) 16:20~	10
⑥	平成28年10月17日(月)13:00~	10	※	場所:3415室	

簡単な状況報告

- 1 実習指導者担当者協議会

「倫理的感受性を育てるためにどんな関わりができるか」というテーマで教員と実習指導者がグループ討議を行った。その結果, 倫理的感受性を育てるためには, 学生と指導者は対話を通じて, 互いに気づきあうことが大切であり, 学生との対話の場を大切にすることが教員, 指導者の役割であるという結論に至った。

- 2 実習検討会

(1) 実習要綱の見直し

(2) 実習における感染症対策のマニュアル作成

実習中の感染対策として, 季節性インフルエンザの流行に備え「実習における季節性インフルエンザ対策」マニュアルを作成し, インフルエンザ対策に取り組んだ。また, 実習で使用する物品の管理方法を検討し, 「実習における感染対策」マニュアルを作成し感染防止に取り組んだ。

(3) 臨地実習教育(コミュニケーションスキル自己評価)の継続評価

平成25年8月よりコミュニケーションスキル自己評価を用い, 臨地実習におけるコミュニケーション能力に対する継続評価を行っている。調査結果については, 実習を経ることでコミュニケーショ

保健福祉学部
看護学科

看護学科実
習検討会担
当教員

平成28年4月22日
(金)13:30~16:00

4102室

				ン能力の自己評価が上昇することが明らかとなった。また、コミュニケーションスキル項目ごとの実習前後での伸び率は、「自分の考えをわかりやすく説明する」が最も低いという結果であった。平成29年8月まで調査を継続する。今後は、調査結果を共有し、各実習で活用していく。
保健福祉学部 看護学科	看護学科教育課程検討会担当教員	平成28年前期より通年で定例開催した教育課程検討会を実施した。 ①平成28年5月11日(水)16:20~17:50, ②平成28年6月2日(木)13:00~14:20, ③平成28年8月4日(木)13:00~14:30, ④平成28年9月1日(木)13:00~14:30, ⑤平成28年9月29日(木)16:20~17:30, ⑥平成28年11月17日(木)9:00~10:30, ⑦平成28年12月15日(木)9:00~10:20, ⑧平成29年1月27日(金)13:00~14:00, ⑨平成29年2月13日(月)13:30~14:30, ⑩平成29年3月7日(火)16:20~17:40	3415会議室 (3/7のみ) 2210会議室)	<p>テーマ 看護学科 教育課程の継続評価</p> <p>参加者数 ①10名 ②9名 ③10名 ④10名 ⑤9名 ⑥10名 ⑦10名 ⑧9名 ⑨10名</p> <p>簡単な状況報告</p> <p>以下の課題について検討を行った。</p> <p>1) 日本看護系大学協議会 看護学教育評価 認定評価の評定項目に関する検討 昨年度から引き続き、看護学教育評価 認定評価の評定項目に関する学内の取り組みを表す資料整理を行い、平成29年2月に認定評価の評定項目に関する検討を作成し、看護学科会議にて報告を行った。</p> <p>2) 各学年の看護技術演習に関する教育内容の実態把握 平成27年度に看護技術演習に関する教育内容についての意見交換を行った内容について整理し、さらに追加で情報収集した内容について可視化した資料を作成した。</p> <p>3) カリキュラムの改善点の抽出、症状・疾患についての講義内容の把握 カリキュラム等について他大学との比較を行った。統合実習や在宅看護論の内容充実に向けて、関係する既存科目との教授内容の調整の必要性があることが示唆された。そのため、まずは看護系教員の担当する科目において教授している疾患・症状についての講義内容の把握を行った。</p> <p>上記の検討した内容をもとに、平成29年度は教育内容と国家試験出題傾向の検討、看護実践能力到達のためのルーブリック作成の検討(案)を行う予定である。</p>
保健福祉学部 理学療法学科	武本秀徳	前期：毎週水曜日4限 後期：毎週水曜日1限	2416室	<p>テーマ ①理学療法学科学生の学内および学外(臨床実習)における学修支援 ②教員の教育法の向上・改善に関わる取り組み</p> <p>参加者数 14名</p> <p>簡単な状況報告</p> <p>①毎週開催されている学科会議にて、各学生の学修状況・生活の状況がチューターによって報告され、学科教員全体に共有されることを図っている。また4年次生の国家試験対策について、計9回開催される模擬試験の結果を供覧し各学生の学修度合いの把握とそれに対する対応を進めた。②教育手法に関連した各種研修会に参加した教員による伝達講習会、学生指導についての提案が行われた。提案については、「初年次教育において『臨床』を如何にイメージさせるのか」、「アクティブラーナーを養成するための方策」といったテーマが取り扱われた。各教員による学科FD研修会は1回/月以上の割合で、学科会議と連ねて行った。そのうち年2回は専門科目の内容検討と成績不振者への対応について学科全教員で検討を行った(3月と9月)。加えて年度末はコースカタログ・シラバスの教員相互による確認を行った。</p>
保健福祉学部 作業療法学科	山西 葉子	5月11日, 6月15日, 7月6日, 8月3日, 17日, 10月5日, 10月5日, 11月2日, 11月	三原キャンパス 2号館2416室	<p>テーマ ・作業療法及び医学分野の最新の動向を探り、教育及び研究の向上につなげる ・学生の志向性に合わせた実習形態のあり方の検討</p> <p>参加者数 12~16名</p> <p>簡単な状況報告 最新のリハビリテーション、作業療法実践の文献報告会、ティーチングポートフォリオの活用ミ</p>

		16日, 12月7日, 21日, 1月18日, 2月1日, 3月1日		<p>ニワークショップ, 広報活動のあり方, 入試制度に対する今後の対応等に関して, 教育内容, 学生指導に生かす意見交換を行った。</p> <p>クリニカルクラークシップ (CCS) に基づいた臨床実習についての研修では, 現在行っている実習とのメリット, デメリット, CCS を用いている大学等の情報を参考にしながら, 本学での臨床実習のあり方を検討した。</p> <p>各学年のチューターは, 入学時より個別面談を行い, 学生の将来の志向性を把握し, 多様な領域を経験するとともに, 自己の将来を見据えた実習を積み重ねられるよう, 今後も学科内での情報共有を図ることとした。</p>
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	渡辺 眞澄	右記のとおり	1309 演習室, その他	<p>テーマ 教員および実習指導者の研究・教育方法の共有と向上</p> <p>参加者数 概ね10~13名</p> <p>簡単な状況報告</p> <p>2016.4.13 12:15-13:00 本学科生の授業外学修時間調査報告(小澤 由嗣 先生)</p> <p>2016.5.9 13:00-17:00 学外実習施設の言語聴覚士との意見交換会</p> <p>2016.5.24 12:15-13:00 神経変性疾患における Molecular Imaging の現状(大西 英雄 先生)</p> <p>2016.5.31 12:15-13:00 学修に困難を示す学生への支援について:「コミュ概論」における演習の試み(玉井 ふみ 先生)</p> <p>2016.7.11 13:00-17:00 学外実習施設の言語聴覚士との意見交換会</p> <p>2016.7.21 12:15-13:00 ひとくちの量とは?(古屋 泉 先生)</p> <p>2016.8.30 15:00-16:00 発話の流暢性・音韻障害の有無・意味障害の有無と神経系の相関に関する最新の研究結果(M. Lambon Ralph 教授. Neuroscience & Aphasia Research Unit: NARU, University of Manchester. 企画: 渡辺 眞澄)</p> <p>2016.10.5 12:15-13:00 発達記録の経過と今後の展開(堀江 真由美 先生)</p> <p>2015.12.7 12:15-13:00 実習指導者との連絡について(長谷川 純 先生)</p> <p>2016.12.12 12:15-13:00 MRI 動画撮像による調音動態の研究—観測・計測の試み—(朱 春躍 教授. 神戸大学大学院 国際文化学研究所. 企画: 吐師 道子 先生)</p> <p>2017.1.24 12:15-13:00 非侵襲的嚥下検知システムについて(土師 知行 先生)</p> <p>2017.2.16 11:30-13:00 岡山 SP(Simulated Patient)研究会との意見交換会</p> <p>2017.2.28 12:15-13:00 リハ教員研修会シンポジウムの伝達講習と情報共有(津田 哲也 先生)</p> <p>学科教員が行っている研究の紹介と教員同士の意見交換, 学外実習施設の言語聴覚士を交えた, 実習指導における問題点, 指導上の工夫点等についての意見交換, 模擬患者(SP)演習による指導上の工夫点等についての意見交換, 学外講師による最新の研究発表・学科教員との討議が行われ, 教員の研究, 教育への取り組みの質的向上が図られた。</p>
保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也	5月18日・25日, 7月19日, 12月9日・ 20日, 1月19日・25日 (計9講義・演習公開)	三原キャンパス 講義・演習室	<p>テーマ 社会福祉士・精神保健福祉士の養成教育の内容の充実を図る</p> <p>参加者数 公開授業実施教員数8人, 公開授業聴講協力教員数(延べ人数)14人</p> <p>簡単な状況報告 今年度の学科の取り組みは, 活動テーマに即して, 授業のピアレビュー事業(授業公開)を継続実施することであった。今年度の目標は, 昨年度よりも多くの教員の参加を促すことであった。</p> <p>(1) 公開授業実施教員数・公開授業聴講協力教員数</p> <p>昨年度よりも協力していただいた公開授業実施教員の数が低下した結果となった。理由として, 昨年度と全く同様の企画であり, 新奇性に欠けていたことも要因の1つと考えられる。この点について, 今後事業をどのように進めていくか来年度の検討課題である。</p> <p>(2) ピアレビュー事業の評価について</p> <p>公開された授業に参加した教員のミニッツペーパーには, 各授業の肯定的な評価とともに, 学生の積極性に触れた内容が多く, 聴講された教員自身の勉強になったとのコメントがほとんどに記述されていた。公開授業の実施教員だけではなく, 聴講教員にも実践的な教育技術の学修の場になっていると思われる。</p>